



教育センターだより

平成27年5月15日 文責 中澤 敦子

教育センター研究員委嘱状交付式 第1回研究員会・富士山学習研究会

授業参観、PTA総会、家庭訪問、学校の研究の骨組みを作る校内研究会、そして何よりこれから1年間一緒に過ごす子ども達とのクラス作りの「はじめの一步」と、学校はまさに怒濤の4月を過ごしました。

学校職員もそして子ども達もそろそろ疲れが出てくる時期ではないでしょうか。そんな中、4月30日(水)に、中央公民館視聴覚室において平成27年度教育センター研究員委嘱状交付式が行われ、町内小中学校12校から選出された研究員一人ひとりに、梶原正孝教育長より委嘱状が交付されました。

教育長から「町の子どもの抱える具体的課題の解決に向けて、教育委員会、教育センターと一緒に教育を構築していく必要がある。教育とは学校で学習を通して得られる子ども像を具体的な形にしていくことである。研究員の先生方の知恵を出し合う中で『人間力』の強化をめざしていきたい。」旨のお話がありました。加えて、教育センターの移転理由についても教育委員会とセンターが同じベクトルを持って運営すべきとの説明がありました。『人間力』を研究員とともに様々な角度から育てていく責任を改めて感じま

した。

同日、引き続き第1回研究委員会が行われました。今年度は、特別研究員として委員長に船津小の小俣欽司先生、副委員長に小立小学校の深澤隆仁先生・西浜小学校の藤巻桂吾先生に中心となって活動していただきます。「世界文化遺産に登録された『信仰の対象・芸術の源泉としての富士山』を児童生徒に伝えていくための授業作り」を研究テーマとし、話し合いでは、授業作りのための提案として藤巻先生より昨年度行った授業実践の紹介、富士山科学研究所の小石川先生より環境教育推進のための学校支援体制の実情と望むべき姿が提案されました。それらを踏まえ、今年度の方向性として、以下の4点を確認しました。

- ①各校の富士山学習年間計画の実施と見直しを行う。
- ②学習プログラムの開発・及び授業の公開をする。
- ③富士山科学研究所等の専門機関と連携し出前授業を実施していく。
- ④研究員の研修の推進を行う。

子どもたちが、富士山と共に生活している自分に自信と誇りを持てるよう学びの後押しをしていきたいと思ひます。

